活用調査表

様式6

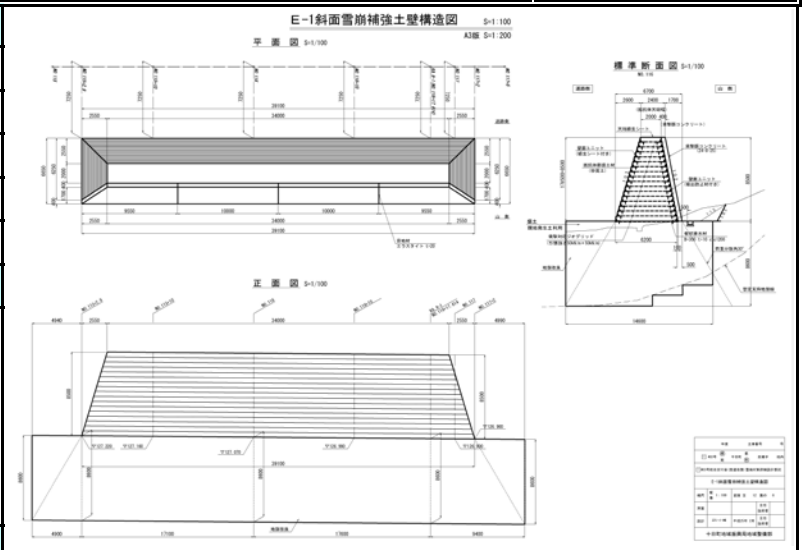
技術名	登録 No.
雪崩防護補強土壁工法	18D1038

施工内容

施工年度	平成26年度
発注機関	十日町地域振興局地域整備部
工 事 名	一般国道403号 防災・安全(国道改築)補正雪崩対策(その1)工事
施 工 地	十日町市大倉丑地内
施工数量	なだれ防止工34.0m (雪崩補強土壁H=8.5m)

新技術の概要

ジオテキスタイルを用いた補強土擁壁を構築し雪崩から道路や建物を防護，または雪崩を誘導する工法である．土構造物であるため従来のコンクリート製に比べて支持地盤に追従する事が可能であることから、経済性に優れる．また，壁面を緑化できることから自然環境に調和し景観性にも優れている．



トライアル工事での評価結果

比較した従来技術		鋼製雪崩予防柵 31基(7段配置)
項目	評価	評価内容
経済性	◎	初期コストに加え、将来的な維持管理においても有利。
工程	◎	重機で施工でき、モノレール運搬等も不要なため大幅な工程短縮となる。
品質 出来形	○	点検・補修が容易で、ライフサイクルコストが向上。工場製作部材が多く現場管理項目が減少。
安全性	◎	山腹での作業や移動がないため、転落や資機材の落下の危険が減少し作業環境が向上する。
施工性	◎	必要な仮設工が少なく、施工が盛土の繰返しと単純で重機作業が可能なため施工性に優れる。
環境	○	発生土を利用できるため、廃棄物の抑制および再利用において環境性に優れる。
その他		

◎:優れている　○:やや優れている
□:従来技術と比べて同程度
△:やや劣っている　×:劣っている

活用上の留意点	中詰材の転圧時、端部においては壁面ユニットに変形が生じないよう注意する必要がある。

新技術問い合わせ先

会 社 名	株式会社ﾌﾟﾛﾃｯｸｴﾝｼﾞﾆｱﾘﾝｸﾞ
所属部課	技術開発部
担 当 者	西田陽一
ＴＥＬ	025-278-1551